

シンガポールの旧正月と今年の干支

シンガポール駐在員事務所
島 宗辰

皆さま、あけましておめでとうございます。1月になり、シンガポールではショッピングモールやオフィスビルに設置されたクリスマスツリーが撤去され、旧正月へ向けた準備が始まりました。

街中では、いたるところにその年の干支が飾り付けられており、お土産物屋に行けば干支の置物、レストランに行けば入口に干支のステッカーなど、多くの干支グッズを見ることができます。



2019年は「猪(イノシシ)」年ですが、右上の写真に出ているのはどう見ても「ブタ(豚)」です。実は日本を除くアジア圏の多くの国では猪=ブタ(イノシシ)です。なぜそうなったかには諸説あるようですが、昔の日本では家畜としてブタを買う習慣がなく、野生のイノシシを狩ってタンパク源にしていたというのが代表的な説のようです。

ちなみに、中国ではイノシシのことを「野猪」、または「山猪」と表記します。アジア各国は中華系民族が多く移り住んでおり、シンガポールも例外ではなく国民の約75%が中華系民族です。チャイナタウンに行けばブタの大きなオブジェが飾ってあるなど、正月(1月)より旧正月のほうが盛り上がるイベントとなっています。



旧正月と言えば、親類や友人にみかん(柑橘類)を贈る風習があります。みかんはインゴット(地金)を表し、「お金持ちになれますように」と祈願して渡したり、お互いに渡し合うことで、幸運を交換するという意味合いがあるそうです。

また、入居する会社の商売繁盛を祈念し、オフィスビルの入り口等にはみかんの木が飾られているのを見ることができます。この時期、日系スーパーや地元高級スーパーでは日本産の高級みかんが贈答品としてよく売れているようです。



日本でも年末商戦があるように、シンガポールでも旧正月前には柑橘類だけではなく、贈答品や高級食材等の売り上げが伸びる時期です。シンガポールだけでなく、世界中の中華系民族の財布の紐が緩むこの時期は、質の高い日本産品を売り込むチャンスかもしれません。

(2019年1月21日現在) 1901